

眞板雅文

Masafumi Maita

1- 16 October, 2022



「風景 No.2」

和紙、木、紐、他

100×106×15(cm) 1986年

(写真：大須賀信一)



眞板雅文「遠い風景」
ロープ、紐、枝、他 294×23×23(cm) 1986年
(写真：大須賀信一)

－ 展覧会概要 －

- 展覧会名：眞板雅文展
- 会期：2022年10月1日(土)～10月16日(日)
- 開廊時間：GALLERY CAPTION/ 12:00-18:00 ETHICA/ 13:00-18:00
- 休廊日：月火曜日 (ただし10月10日[月・祝]は開廊いたします)
- 会場：2会場にて同時開催いたします

GALLERY CAPTION (ギャラリーキャプション)

〒500-8813 岐阜市明徳町10 杉山ビル1F tel 058-265-2336

ETHICA (エチカ)

〒500-8838 岐阜市八幡町14-3 三輪ビル2F tel 058-207-8899

□ お問い合わせ：

担当/ 山口 (月火曜日、祝日をのぞく 12:00-18:30)

tel 058-265-2336 fax 058-265-5715 caption@mbe.nifty.com

http://www.gallerycaption.info/

ギャラリーキャプションでは10月1日から16日まで「眞板雅文展」を開催いたします。

本展は2020年4月に、さまざまな素材を扱いながら、一貫した自然観を持ちつづけた彫刻家 眞板雅文(1944年-2009年)が、当廊において1986年と1990年に行った個展に出品した作品を中心に、眞板の80年代の仕事をつまみ直す機会として企画されながら、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け延期となっていたもので、この度、新スペース(岐阜市明徳町)への移転後はじめての展覧会として、セカンドスペース「ETHICA」(エチカ/岐阜市八幡町)と、2会場で開催する運びとなりました。

1960年代より、写真、映像、立体作品を発表しはじめた眞板雅文は、2年間のフランス滞在を経て、1976年には世界最大の国際美術展である『第37回ヴェネチア・ビエンナーレ』に招待され、次いで1986年にも、若林奮とともに日本館にて展示を行うなど、国内外で高い評価を受けました。またギャラリーや美術館での展覧会のほか、80年代から90年代にかけて宇部(山口県)や美濃加茂(岐阜県)など、全国各地で開催された野外彫刻展にも精力的に参加し、パブリック・アートも国内に数多く設置されています。眞板が惜しくも急逝し10年余りが過ぎましたが、常に第一線にあった作家の仕事のなかでも近年、70年代に発表された、写真に黄色いテープを貼ったシリーズ『自然線・人口線』や、大判の写真パネルと、日用品や産業材料などの、イメージと物体とを組み合わせた『状況』のシリーズが、海外を中心に注目され、再評価の気運が高まっています。

その、写真をひとつのメディアとして作品に取り入れたシリーズの後、眞板は丹沢(神奈川)にアトリエを移したことを契機に、ロープや布を使用し、木の枝、根などの『植物』、また自然の『風景』をモチーフとした、アニミズム的とも評される作風へと移行します。一方で、偶然目にした橋梁の廃材(鉄屑)との出会いから生まれた『風の道』(須磨離宮公園、1984年)のような野外展示や、パブリック・アートを手がけるなど、制作の幅に広がりを見せます。公共空間に向けての作品設置の機会を得たこと、また眞板自身が『環境造形』と呼ぶ、四季の移ろいや自然な場をより意識した試みのなかで、スケールの大きな作品が制作され、『音・竹水の閑』(入善町下山芸術の森発電所美術館、1997年)など、竹や石、水が用いられるようになります。

こうして眞板の仕事を時系列に並べてみると、素材やスケールが変遷し、一見してそれらのつながりを捉えることは、難しくも思われます。そこで本展では、野外彫刻、パブリック・アートの研究で知られる藤井匡氏(東京造形大学准教授)が、「眞板雅文の作品を彫刻＝写真という観点から」はじめて見通してみせた新著『眞板雅文の彫刻＝写真』(阿部出版)を手がかりに、本展展示作品『遠い風景』(1986年)や『風景No.2』(1986年)のような、ロープや紐、枝などを用いて制作された80年代の作品を、藤井氏が示した「<つくる> ことと <歩く> ことの繋がり」から辿ります。

藤井氏もまた「基本的に、眞板の作品は明確化の困難なところがある」と前置きしたうえで、「そのことは、逆にいえば、彼の思考が世界を分節する方向にではなく、世界を結合する方向にあることを示しているといえる。」と述べ、その思考に「<歩く>」ことが、深く関わっていることを示唆しています。眞板は「常に旅人でありたい」と、自らの足で気の向くままに歩くことを好み、旅するようにアトリエを転々としながら、その場所、その空間、またその瞬間に、身体を通して向き合い、そこで起こることを見ようとしてきました。あるインタビュー(*1)での冒頭、聞き手の「今回の作品も“風景”というタイトルがありますね」という問いに、おもむろに「だからやっぱり身体なんだよね」と答えてみせた作家は、自然のなかで世界と出会い、観察し、そして自らも自然とともに在るのだという、身体的な実感を、何よりの拠りどころにしました。生まれてこのかた歩んできた道筋と記憶、日々のお会いのもとに集められた素材とを、内なる自分を介して、目の前の風景と結びつけ、自然そのものへと連ねていく。連綿と巻かれたロープや、何かを結びつけながら枝葉を広げるように張られた紐は、それ自体が眞板の記憶であり、旅の先々で自然との豊かな関係を結びながら歩きつづけた、作家の一筋の軌跡と言えるのかもしれない。

お忙しいこととは存じますが、会期中には是非ご高覧賜りますよう、ご案内申し上げます。

(*1)「美術手帖」[作家訪問] 眞板雅文 | 還流する風景 (1985年1月号、美術出版社)



「樹々の精」
第42回ヴェネチア・ビエンナーレ
<イタリア、1986年>
(写真: 安齋重男)



「DANCE OF TREES」
紙に鉛筆、コラージュ 70×56(cm) 1986年
(写真: 大須賀信一)



展示風景 - 「シンビズム3 信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」 (安曇野高橋節郎記念美術館 / 長野、2019年)

眞板雅文 | Maita Masafumi

1944年 中国北東部(旧満州・奉天)に生まれる

1971-1973年 エール・フランスおよびシェルター・ロック財団の奨学金によりフランスにて滞在、制作

2009年 逝去

【主な展覧会】

1966年 村松画廊（東京）

1971年 「第6回国際青年美術家展」（高輪美術館/ 東京）【大賞受賞】

1972年 「MAITA」（ギャラリー・ランベール/ パリ、フランス）

1974年 「第4回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」（兵庫）

1976年 「第37回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア）

1977年 「第10回パリ・ビエンナーレ」（パリ市立近代美術館、フランス）

1980年 「第1回ハラ・アニュアル '80年代の展望」（原美術館/ 東京）

1983年 「風景との出会い」（宮城県美術館）

「現代美術における写真-1970年代の美術を中心として」（東京国立近代美術館、国立近代美術館京都分館へ巡回）

1986年 「第42回ヴェネチア・ビエンナーレ」日本館にて若林奮とともに参加出品（イタリア）

GALLERY CAPTION（岐阜）

1990年 「現代美術の流れ [日本]」（富山県立近代美術館）

GALLERY CAPTION（岐阜）

1994年 「写真と彫刻の対話-安斎重男 眞板雅文」（神奈川県立近代美術館）

1995年 「第2回フジサンケイ・ビエンナーレ現代彫刻展」（美ヶ原高原美術館/ 長野）

「第7回本郷新賞 受賞記念眞板雅文彫刻展」（札幌彫刻美術館）

1997年 「眞板雅文展-音・竹水の閑」（入善町下山芸術の森発電所美術館/ 富山）

1999年 「彫刻の森美術館-森に生きるかたち-」（箱根彫刻の森美術館/ 神奈川）

2000年 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000」（松之山町、新潟）

2003年 「音・竹水の閑-大原美術館 眞板雅文」（大原美術館/ 岡山）

2004年 「刻-還流 眞板雅文展」（みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム/ 岐阜）

2006年 「光が彩なす交響楽 眞板雅文インスタレーション展」（岩手県立美術館）

2007年 「水の情景-モネ、大観から現代まで」（横浜美術館）

2011年 「1970年代へ写真と美術の転換期 - 複写 反対 投影 -」（ユミコチバアソシエイツ/ 東京）

2013年 「あめつちとの協奏」（横須賀美術館/ 神奈川）

2019年 「光／陰 眞板雅文」（シーラカンス 毛利武士郎記念館/ 富山）

「シンビズム3 信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」（安曇野高橋節郎記念美術館/ 長野）

2020年 「Masafumi MAITA」（ギャラリー・クリストファー・ガイヤール/ パリ、フランス）<企画協力:ユミコチバアソシエイツ>

【パブリック・コレクション】

美ヶ原高原美術館（長野） 宇部市野外彫刻美術館（山口） カスヤの森現代美術館（神奈川） 神奈川県立近代美術館

富山県立近代美術館 札幌彫刻美術館 下山芸術の森発電所美術館（富山） 大原美術館（岡山）

とうや湖ぐるっと彫刻公園（北海道） 美濃加茂市民ミュージアム（岐阜） 横須賀市美術館（神奈川）

ヒューストン美術館（アメリカ） パリ市立近代美術館（フランス） トロア美術館（フランス） カンティエニ美術館（フランス）

ストラスブール美術館（フランス） サンタバール美術館（マモラ、イタリア） ピノー・コレクション 他

<徒歩>

GALLERY CAPTION: JR 岐阜駅より約 25 分

ETHICA : JR 岐阜駅より約 10 分

GALLERY CAPTION ⇄ ETHICA : 約 15 分

<バス>

JR 岐阜駅 :

10、11 番のりばより「ドリームシアター前」下車

12、13 番のりばより「商工会議所前」下車

* 10、11 番は金華橋通、12 番、13 番は長良橋通を通ります。

名鉄岐阜 :

4 番のりばより「商工会議所前」下車

5 番のりばより「ドリームシアター前」下車

* 4 番は長良橋通、5 番は金華橋通を通ります。

駐車場のご用意はございません。

近隣のコインパーキングをご利用ください

GALLERY CAPTION (ギャラリーキャプション)

岐阜市明德町10 杉山ビル1F

tel 058-265-2336

ETHICA (エチカ)

岐阜市八幡町14-3 三輪ビル2F

tel 058-207-8899

web site: <https://www.gallerycaption.info>

facebook: <https://www.facebook.com/gallerycaption/>

instagram: @gallery_caption

@ethica_gallerycaption

